

請 願 文 書 表

(建設局)

受 理 番 号	2 1	受 理 年 月 日	令 和 5 年 10 月 5 日
件 名	地域住民が集える場としての元松賀茂公園予定地の活用		
要 旨	<p>都市計画公園の松賀茂児童公園（5,380平方メートル）は、1941（昭和16）年に松賀茂地区土地区画整理事業により用地が確保され、1943（昭和18）年に京都市苗ほとして開設された。</p> <p>1956（昭和31）年に都市計画公園として位置付けられ、1961（昭和36）年に公園西側の一部（1,990平方メートル）を開園した。残る東側の計画区域（3,390平方メートル）は苗ほとして活用し、その後役割を終えて1997（平成9）年3月に閉鎖し、京都市が土地を所有しているものの未整備のまま今年の3月末の都市計画審議会で公園予定地から除外され今日に至っている。</p> <p>元々市財政の赤字解消のために売却も視野に入れた用途変更であったが、計画当初より収支が改善され、77億円の黒字との市長発表もあった。</p> <p>松ヶ崎学区には六つの公園があるが、松賀茂児童公園も含め全て狭い。他公園に至っては多くは家の敷地一、二戸分の広さしかない。隣の葵学区の公園を利用している住民も少なからずいる。原因は遊具の老朽化でなく、狭くて二家族程度でしか使えないという声に表れている。</p> <p>東端の元苗場事務所はコンクリート造りでインフラもそのままあり、改修の必要はあるものの工事費用は抑えられる。かつて地元住民が利用していたこともあり、避難所機能としても有効である。</p> <p>松ヶ崎学区には、松ヶ崎浄水場、京都工芸繊維大学、左京区役所、宝が池公園スポーツ広場が広い面積を取って存在している。広大な面積を、京都市民、左京区民、学生や研究者、スポーツ愛好家に提供している。しかし、当学区民にとって児童の遊ぶ所、学区民の憩える場所は全く狭い。かんぼ跡地にマンション建設も予定され、1,000人を超す人口増も見込まれる。松賀茂児童公園や住民が集える場所の整備が急がれる昨今である。元松賀茂公園予定地の住民目線での活用を要望する。</p> <p>については、元松賀茂公園予定地の全部を売却することなく、児童公園の拡張や東端に現存する元苗場事務所の整備改修を行い、住民の集える場として提供することを願う。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	とがし 豊、平井 良人、井崎 敦子、くらた共子、加藤 あい		
付 託 委 員 会	まちづくり委員会		